

四日市大学社会連携報告書

2025 年度版
(令和 7 年度)

目 次

1 社会と連携した活動

1-1 研究機構		1
特定プロジェクト研究(環境情報学部)		2
1-2 ボランティアセンター		6

2 地域と連携する授業

2-1 四日市学(全学共通)		7
2-2 社会史(総合政策)／地域社会の歴史(全学共通)		7
2-3 地域社会と環境(全学共通)		8
2-4 防災とまちづくり(総合政策)		8
2-5 地域連携特別講義a／全学共通特別講義a(全学共通)		9
2-6 インターンシップa・b(全学共通)		9
2-7 社会調査実習1・2(全学共通)		10
2-8 経営ケーススタディ(総合政策)		10
2-9 総合政策特別講義b(総合政策)		11
2-10 法とまちづくり(総合政策)		11
2-11 地域開発論(総合政策)		12
2-12 都市祭礼論／祭りとまちづくり(総合政策)		12
2-13 市民社会論(総合政策)		13
2-14 市民とまちづくり(総合政策)		13
2-15アントレプレナーシップ論(総合政策)		14
2-16 四日市公害論／都市環境学(環境情報)		14
2-17 地域連携環境講義／地域環境論(環境情報)		15
2-18 環境保全とツーリズム(環境情報)／観光政策(総合政策)		15
2-19 伊勢湾海洋実習／海洋調査法(環境情報)		16
2-20 土壌環境学(環境情報)		16

3 高大連携

3-1 高大連携授業～北星高等学校の1年生ゼミへの参加～		17
3-2 2学部共同の高大連携授業		18
3-3 被災地支援活動と学校間連携		19

4 教職員による地域活動

4-1 留学生による地域社会との交流		20
4-2 一般社団法人四日市とんてき協会		21

5 学生による地域活動

5-1 地パト(四日市大学地域パトロール部)		22
5-2 四日市市選挙啓発学生会「ツナガリ」		23
5-3 わかもの学会		24

6 生涯学習・公開講座

6-1 みえアカデミックセミナー		25
6-2 四日市大学公開講座		26
6-3 四日市市民大学		27
6-4 履修証明プログラム		28
6-5 社会人を受け入れる教育プログラム		29

7 研究所

7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所		30
7-2 四日市大学研究機構 公共政策研究所		31
7-3 四日市大学研究機構 生物学研究所		32
7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所		33
7-5 四日市大学研究機構 地域農業研究所		34

8 NPO等(四日市大学に所在)

8-1 四日市北ロータリークラブ		35
8-2 四日市東日本大震災支援の会		36

資料A 学外委員会での活動(委員会名など)		37
資料B 学外での講演活動		40

1-1 研究機構

活動の目的と経緯

四日市大学研究機構は、本学教員が外部研究資金（競争的研究資金）を獲得して、その研究活動を深化拡大するのを援助するとともに、研究を通じて得た知見を講義などの教育に反映させて、本学の研究教育の水準を向上させることを目的としています。

競争的研究資金を獲得するために、文部科学省からの科学研究費（科研費）、ならびに、科研費以外の国や民間の研究助成金等の募集情報をこまめに全教員に電子メール等を通じて配布しています。また、採択率を上げるために、科研費に関する説明会や講習会を開催したり、申請書の作成支援を行ったりしています。

そして、研究を促進させるために研究所を設立しています。これによって様々な分野で研究している教員間の共同研究を推進するだけでなく、官・産・学・民の活発な交流を推進することを図っています。

活動内容と実績

令和7年度の文部科学省・科学研究費（科研費）に本学から13件の応募を行い、2件が採択されました。また、科研費以外の外部資金の獲得を目指して、外部資金情報の収集を強力に推進し、収集した外部資金情報を全教員へメール配信を行いました。科研費以外の外部資金で新たに2件採択されました。

四日市大学特定プロジェクト研究の募集を行い、1件を新規に採択し、「ブルーマリンデジタルイノベーション：先端AI・ICT技術で挑む海洋環境保全・水産資源再生」、「実践する総合政策」、「先端デジタル技術を用いた地域教育資源のデジタルアーカイブ構築」の3件の特定プロジェクト研究が進行中となりました。また、この特定プロジェクト研究の成果を地域に対して発信するために、これまで地域連携フォーラムを開催してきましたが、地域連携フォーラムの開催に代えて、動画を作成し本学ホームページより閲覧できるようにし、地域だけでなく幅広い地域の人々に研究成果を発信しました。

1年生を対象とした研究倫理教育のために、著作権を中心とした教育動画と引用に関するクイズを作成し、入門演習の授業内で研究倫理教育を行いました。また、3年生を対象とした研究倫理教育のために、研究活動における不正行為をまとめたパンフレットを作成し、演習の授業内で倫理教育を行いました。

今後の計画

四日市大学特定プロジェクト研究では、「実践する総合政策」、「ブルーマリンデジタルイノベーション：先端AI・ICT技術で挑む海洋環境保全・水産資源再生」が令和8年度で終了するため、新規に募集を行う予定です。

担当部門：研究機構

連絡先：電話 059-365-6712

メール：yuro@yokkaichi-u.ac.jp

特定プロジェクト研究
先端デジタル技術を用いた地域教育資源のデジタルアーカイブ構築
(研究代表者：環境情報学部 黒田淳哉)
最終報告

1. プロジェクトの目的と概要

本プロジェクトは、地域に残る VHS 等のアナログ映像資料を未来へ継承することを目的として、先端デジタル技術を用いたデジタルアーカイブ構築に取り組んだ。地域映像資料には、公的記録だけでは捉えきれない地域の記憶が記録されている。しかし、こうした映像資料の多くは、磁気テープの劣化や再生機器の減少により、今後、再生や活用が困難になることが予想される。国際連合教育科学文化機関（UNESCO）は、磁気テープ資料が媒体劣化と再生機器の消失により、2025 年以降に再生不能となる恐れを指摘し、「Magnetic Tape Alert」を発表している。地域にも、過去の暮らしや祭り、文化活動を記録した貴重な映像・音声資料が数多く残されているが、その多くは十分に整理されないまま、媒体の劣化や再生環境の変化に直面している。

こうした状況を踏まえ、本プロジェクトでは、四日市市立博物館との連携のもと、地域映像資料をデジタル保存するだけでなく、AI を活用した超解像化やノイズ低減等により、映像の視認性を向上させ、資料としての活用可能性を広げることを目指した。

2. 実施内容

地域に残る貴重な映像資料のなかから、昭和 9 年に市民が記録した「四日市祭」の映像を対象として選定し、高品質化をねらった実践的検証を行った。映像の総フレーム数は約 7,100 フレーム。処理工程としては、映像のフレーム分解、AI によるリマスタリング、フレーム統合による映像再構築、最終的なビジュアル調整を行った。なお、対象映像は全フレームにわたってブロッチ傷およびスクラッチ傷が多数確認され、状態は良好とは言えなかった。技術適用前の映像フレームを図 1 に示す。これらの傷の自動処理は本システムでは困難であったため、軽減処理は手作業により対応した。なお、高品質化処理にあたっては、Real-ESRGAN、SwinIR、DiffBIR、Stable Diffusion 等の複数の AI モデルによる比較検証を行い、映像の質感保持に優れる Real-ESRGAN を主要モデルとして採用した。技



図 1 技術適用前の映像フレーム



図 2 技術適用後の映像フレーム

※○で囲んだ部分がブロッチ傷およびスクラッチ傷

術提供後の映像フレームを図 2 に示す。

3. 成果

劣化した地域映像資料に対して、AI を含むデジタル処理技術を用いることで、視認性を高めながら映像を再構築できる可能性を確認した。対象映像にはブロッチ傷やスクラッチ傷が多数確認されたが、手作業による軽減処理と AI による高品質化を組み合わせることで、公開に向けた映像品質の改善を行うことができた。処理後の映像は、四日市市立博物館の企画展「昭和のくらし 昭和のまつり」において公開され、本プロジェクトの検証成果を、地域の歴史的記録の公開・活用へと接続することができた。

また、今回対象とした映像には音声が含まれていなかったが、今後、映像資料に付随する音声や地域に残る音声資料の保存・活用へ展開することを見据え、音声処理に関する予備的検討も行った。具体的には、磁気テープに記録された音声の劣化を想定し、iZotope RX11 Advanced を用いたノイズ除去を試行した。その結果、ヒスノイズ、ハムノイズ、劣化に伴うノイズの低減に一定の効果があることを確認し、映像と音声を含めた総合的なリマスタリング手法の検討につなげる知見を得た。

4. 課題

一定の成果が得られた一方で、今後に向けたいくつかの課題も明らかとなった。課題としては、まず、ブロッチ傷やスクラッチ傷の軽減において、今回は手作業による処理が中心となった点が挙げられる。今後は、傷の検出及び自動処理手法を検討し、作業の効率化と処理精度の向上を図る必要がある。また、地域には多くの貴重な映像資料が残されているものの、デジタル保存や修復を進めるための実践的なリマスタリング手法は、十分に確立されているとはいえない。そのため、資料の状態や記録内容に応じて、どのような処理が適切であるかを判断するための知見を蓄積していく必要がある。さらに、映像アーカイブを担う技術者の育成も重要な課題である。地域映像資料を将来へ継承していくためには、デジタル化や修復に関する技術的知識に加え、資料の歴史的価値や地域における意味を理解し、それらを適切に保存・活用へとつなげる人材の育成が不可欠である。

5. おわりに

本プロジェクトを通じて、地域に残されたアナログ映像資料は、地域の暮らしや文化、人びとの営みを現在へ伝える重要な文化資産であることを改めて確認することができた。地域には、アナログ状態のまま残されている映像資料がなお多く存在しており、そのなかには、公的記録だけでは捉えきれない地域の記憶を含むものも少なくない。こうした資料を保存し、公開・活用へとつなげていくことには、大きな意義がある。

また、地域映像資料を将来へ継承するためには、デジタル化だけでなく、資料の状態に応じた修復や高品質化の検討が必要である。本プロジェクトでは、AI を含む先端デジタル技術を活用することで、地域映像資料の保存と活用の可能性を広げる一步を示すことができた。今後は、映像の傷の自動検出・補正や、音声資料を含めた総合的なリマスタリング手法の検討を進めるとともに、地域機関との連携を継続し、持続可能なデジタルアーカイブの基盤整備につなげていきたい。



特定プロジェクト研究は、地域課題解決に寄与することをめざし、四日市大学が大学全体として組織的に取り組む研究・プロジェクトです。複数年度で取り組む一定規模以上の事業です。

先端デジタル技術を用いた地域教育資源のデジタルアーカイブ構築

概要：国際連合教育科学文化機関(UNESCO)は、磁気テープ資料が媒体劣化と再生機器の消失により2025年以降に再生不能となる恐れを指摘し、「Magnetic Tape Alert」を発表している。本プロジェクト研究では、この危機を踏まえ、地域に残る VHS などのアナログ映像資料を未来へ継承するためのデジタル保全に取り組んだ。AIを活用した超解像化やノイズ除去によって映像の高品質リマスタリングを行い、地域メディアとしての資料価値を良好な状態で次世代に伝えることを目指した。

連携相手先：四日市市立博物館

1. 課題の整理

- ・磁気テープ資料の劣化
- ・磁気テープ資料の再生環境が、失われつつある
- ・再生技術や保全を担える専門人材の不足



図1 カビによる劣化例



図2 テープ切れを補修

地域の文化記録の消失が進行

地域には、人々の暮らしや歩みを映した価値ある記録が数多く眠っている。しかし、それらは磁気テープ資料の劣化や再生環境の消失、保全を担う専門人材の不足によって、失われつつある。

課題に対する具体的なアプローチ

磁気テープ映像をデジタル化し、AIを含むデジタル処理技術でリマスタリングすることで、文化記録を長期的に継承するための保全基盤の構築を目指した。

2. 方法

2.1 処理手順 磁気テープ映像を対象に、修復からAI等を用いた高品質化・再構築までの実践的リマスタリング工程を構築した。



2.2 AIモデルの比較テスト

Step5で使用するAI処理の有効性を確認するため、複数のモデルによる比較テストを行った。その結果、映像の質感保持に優れていたReal-ESRGAN を主要モデルとして採用した。



図3 技術適用前の写真



図4 Real-ESRGAN



図5 SwinIR



図6 DiffBIR



図7 stable-diffusion



先端デジタル技術を用いた地域教育資源のデジタルアーカイブ構築

概要：国際連合教育科学文化機関(UNESCO)は、磁気テープ資料が媒体劣化と再生機器の消失により2025年以降に再生不能となる恐れを指摘し、「Magnetic Tape Alert」を発表している。本プロジェクト研究では、この危機を踏まえ、地域に残る VHSなどのアナログ映像資料を未来へ継承するためのデジタル保全に取り組んだ。AIを活用した超解像化やノイズ除去によって映像の高品質リマスタリングを行い、地域メディアとしての資料価値を良好な状態で次世代に伝えることを目指した。

連携相手先：四日市市立博物館

3. 結果



図8 技術適用前の映像フレームa



図9 技術適用前の映像フレームb



図10 技術適用前の映像フレームa



図11 技術適用前の映像フレームb

昭和9年に市民が記録した「四日市祭」の映像を対象に実験を行った。オリジナル素材ではなく、オリジナルからVHSにダビングされた映像。

・再生時間：約4分(音声なし)

・総フレーム数：7,100フレーム

○：ブロッチ傷およびスクラッチ傷

状態が悪く、全フレームに多数のブロッチ傷およびスクラッチ傷があった。本システムではブロッチ傷およびスクラッチ傷の自動処理が困難であったため、軽減処理は手作業により行った。

実験的処理が終わった映像は、四日市市立博物館の企画展「昭和の暮らし 昭和のまつり」にて公開された。

4. 音声処理に関する予備的検討

磁気テープの音声劣化に対し、iZotope RX11 Advancedを用いてノイズ除去の予備検討を実施した。アナログテープ特有のヒスノイズ、電源由来のハムノイズ、劣化によるクラックルノイズに対し、スペクトル解析技術を適用。背景ノイズを15dB低減、ハムノイズの除去、クラックルノイズ削減を達成し、音声明瞭度が大幅に向上した。

今後は映像処理で実績のあるReal-ESRGANなどの深層学習技術を音声領域にも展開し、音声超解像による失われた高周波成分の復元、ドロップアウト部分の自動補完、文脈を考慮した高度なノイズ分離など、AI駆動型の音声修復システムの開発を目指す。映像と音声の両面でAI技術を統合的に活用し、地域の貴重な視聴覚資料を次世代へ継承するデジタルアーカイブ基盤を構築する。

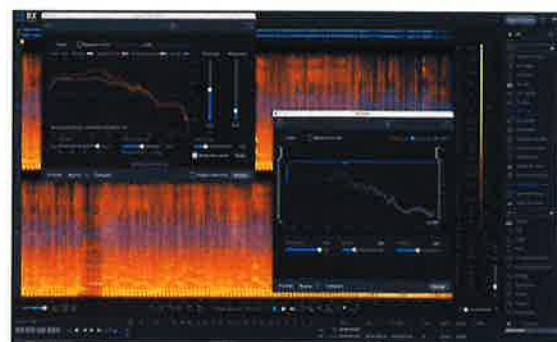


図12 iZotope RX11 Advancedによる信号解析・処理

5. 課題

- ・今回はブロッチ傷・スクラッチ傷の軽減を手作業で行った。今後はAIを用いた自動処理手法の検討が必須。
- ・地域には多くの貴重な映像資料が残されている。地域文化を将来へとつなぐため、実践的なリマスタリング手法の構築が必須。
- ・映像アーカイブを担う技術者の育成は、地域の映像資料を将来へ継承するうえで不可欠。

代表者 環境情報学部 黒田淳哉

構成員 環境情報学部 メディア情報専攻教員

1-2 ボランティアセンター

活動の目的と経緯

四日市大学ボランティアセンターは、平成 25 年 9 月に設置されました。学生ボランティアの依頼・参加申込の窓口として、学生と学外依頼者のマッチングを行っています。平成 27 年度からは、学生全員をボランティア登録し、原則として全員にボランティア依頼情報を送信する仕組みを導入しました。

ボランティアセンターの目的は、①学生の主体的なボランティア活動の振興、②ボランティア活動を通じた学生の人間的成長と本学の地域貢献力の向上、の 2 点です。この目的の実現に向けてボランティア依頼方法や最新の募集情報をホームページに公開し、学生・学外の方への周知を図っています。

活動内容と実績

ボランティア活動の状況（ボランティアセンターを通じて申し込んだ活動のみ）

年度	項目	依頼件数	学生参加件数	参加率	学生参加者数	
					延べ	実数
令和 5 年度		20 件	14 件	70%	160 人	21 人
令和 6 年度		36 件	10 件	28%	52 人	13 人
令和 7 年度		31 件	12 件	38%	70 人	25 人

近年、留学生が積極的にボランティアに参加しています。四日市諏訪商店街振興組合が主催する「四日市綱引きグランプリ」では、当日スタッフとして留学生 4 人が参加しました。主催者からは「外国人であるため意思疎通に不安があったが、言葉の心配もなく、まじめかつ笑顔で対応してくれた。他のボランティア参加者からの評価も高かった。」との声が寄せられています。また公益財団法人国際環境技術移転センター主催の「高校生地球環境」では、本学の留学生が通訳にとどまらず、参加者同士の交流を支援する役割も果たし、高い評価と感謝を受けました。このように、本学の学生が地域のイベント等にボランティアとして参加し地域に貢献することは、ボランティアセンターが掲げる「地域貢献力の向上」という目的に合致するものです。今後もボランティアセンターでは、学生が積極的に活動へ参加できるよう引き続き支援に努めてまいります。

今後の計画

本学のすべての学生が積極的にボランティア活動できるようサポートしていきたいと考えています。

担当部門 : 学務課（ボランティアセンター）

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : vol-center@yokkaichi-u.ac.jp

2-1 四日市学(全学共通)

活動の目的と経緯

四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。四日市市と組織的に連携して企画しています。

活動内容と実績

授業は、座学 13 コマとフィールドワークで構成しています。座学は四日市市の全庁的な施策を参考にしながら本学の教員の専門性も加味して企画しています。ガイダンスを除く座学は、「四日市公害に向き合う」「産業」「文学者たち」「歴史」「多文化共生」「食」「都市計画」「文化財」「シティプロモーション」「危機管理と防災」「子育て支援」「行財政」です。

フィールドワークは、四日市市観光協会が発行するまちなかマップを全受講者に配布するとともに、講義期間中に各自が興味をもった場所を実際に訪れることを課題としています。

今後の計画

今後とも時節に応じて企画を見直し実施していきます。

担当部門 : 学部共通 担当教員名 : 岡 良浩 (代表) 他 7 名

2-2 社会史 (総合政策学部) / 地域社会の歴史 (全学共通)

活動の目的と経緯

四日市市および三重県を対象として、地域の社会・政治・産業・自然・環境の背景となる歴史や文化を学び、この地域の将来に貢献できる人材を育成することを目的としています。

活動内容と実績

考古学から現代に至るまでの四日市市および三重県の長い歴史について講義を行うとともに、他地域との交流や文化比較、地理的特徴も提示しながら授業を展開しました。このような講義を通じて、地域の特色や文化的優位性等を深く理解できるよう授業を構成しています。歴史を学ぶことで、過去の人々の知識や知恵に触れ、これらを活かして地域の魅力を発信できる力を養います。さらには、地域社会の視点から日本や世界の課題を探り、主体的に検討する姿勢を身につける機会といたしました。令和7年度は60名の学生が本科目を受講しました。

今後の計画

次年度以降も継続して開講し、地域に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 浅井 雅

2-3 地域社会と環境(全学共通)

活動の目的と経緯

地域の環境問題として「里山の衰退」、「獣害問題」、「海洋ゴミ」などをとりあげます。これらの原因となる社会的背景や解決のために地域でどのような取り組みが行われているのかについて学びます。

活動内容と実績

地域で生じている様々な環境問題に対して具体的な事例を示すことで、これらを自分たちの身近な問題として認識し、考えるきっかけとしました。また、問題解決のために、地域住民や行政、研究者が連携して保全活動に取り組んでいる事例を紹介し、地域の生物調査や環境保全活動に学生自らが主体的に参加、継続的に取り組んでくれることを期待しました。本年度は、受講生の中から、地域の取り組みを紹介するイベントへの参加や海洋ゴミの清掃活動への協力など、地域主体で行われる環境保全活動に実際に参加、体験した学生もみられました。

今後の計画

環境問題を身近な問題として考え、主体的に取り組むことのできる学生の育成に努めます。

担当部門 : 環境情報学部 担当教員名 : 野呂 達哉

2-4 防災とまちづくり(総合政策学部)

活動の目的と経緯

講師に、行政・社協・自主防災隊など、さまざまな防災に関わる機関から招聘し、実践的な講義を市民にも開放し、NPO 法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。

活動内容と実績

11 コマのオンデマンド講義でテキスト全てを解説し、週末2日の対面による集中講義を受けていただく正規授業です。一般の方の受け入れもしており、防災士の資格取得を目指します。週末の対面による講義は、5月の中旬から下旬の土日に設定します。この2日間は、実践的な学びを重視し、県内の地域防災の最前線で活躍している自衛隊員、市役所の危機管理室職員、社会福祉協議会職員、地域の自主防災組織の方などを講師に招聘して講座を展開、宮城県からはリモートでゲスト講師もインタビュー参加します。また、避難所運営訓練 HUG、災害ボランティアセンター運営訓練も行います。

今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 鬼頭 浩文

2-5 地域連携特別講義 a/全学共通特別講義 a (全学共通)

活動の目的と経緯

三重県内の各高等教育機関が共同で開設しており、「食と観光」について学ぶ PBL 型の科目として、平成 29 年度から開講しています。※PBL (Project Based Learning) は、「課題解決型学習」を用いた勉強法です。

活動内容と実績

令和 7 年度は、鳥羽市の離島（答志島・菅島）を対象として、地域課題の発見とその解決方法について、フィールドワークやグループワークから考えていきました。本学の 12 名の学生と皇學館・三重・三重短・鈴鹿医療科学大の学生も参加しました。学生たちは大学間の垣根を超えてお互いに協力しながら議論を重ねました。提案内容は、県内学生による地域活動発表会である「みえまちキャンパス」にてプレゼン発表を行いました。



答志島でのフィールドワーク

今後の計画

高等教育コンソーシアムみえの事業として、令和 8 年度も継続して実施していきます。

担当部門 : 全学共通科目 担当教員名 : 倉田 英司

2-6 インターンシップ a・b(全学共通)

活動の目的と経緯

インターンシップ a は、オープン・カンパニーを一定回数経験し、就活への意欲向上を目指します。b では、大学の長期休暇などに合計 10 日間をフルタイムで就労体験し、2 単位を認定します。

活動内容と実績

インターンシップ a は、5 月に説明会を開催し、希望者は志望動機などを記入するエントリー用紙を作成しキャリアサポートセンターに提出します。その後、事前研修・面談などを行い、8～9 月にオープン・カンパニーに参加します。5 つ以上の経験を経て、10 月の事後学習を行い、11 月に単位認定を行います。インターンシップ b は、5 月に説明会を開催し、面接に合格した学生は研修先のマッチングを行い、8～9 月に 10 日以上インターンシップ(5 日のインターンシップを 2 か所で行うことも可)に参加します。10 月には事後研修とレポート提出を受け、単位認定を行います。

今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門 : 全学共通科目 担当教員名 : 鬼頭 浩文

2-7 社会調査実習 1・2(全学共通)

活動の目的と経緯

社会調査実習 1・2 は、全学共通科目の「社会調査士養成ユニット」の一部であり、(一社)社会調査協会が発行する「社会調査士」資格の取得をめざすための科目です。

活動内容と実績

この授業では、社会調査の企画・設計から実施・分析・報告に至る一連のプロセスを学生が主体的に担い、実践的に体験します。今年度は、四日市市内の自動運転移動サービスに係る実証実績のある株式会社マクニカと四日市市役所都市整備部の方々にご協力を頂き、大学での出張講義や四日市版 MaaS/デジタルマップに関する意見交換、自動運転 EV バスへの試乗を行いました。学生たちは、現場の皆さんからのお話を伺いながら、自分たちが行った調査で得られたデータが持っている意味や社会調査はどのように社会に活かされていくのかについて考えていました。

今後の計画

今後も地域の課題をテーマに取り上げ、本学ならではの生きた社会調査を実施していきます。

担当部門 : 全学共通科目 担当教員名 : 倉田 英司

2-8 経営ケーススタディ (総合政策学部)

活動の目的と経緯

本講義は、企業の成功事例をケーススタディとして理解することを目的としています。企業の総合力や成功の秘訣を考えることを狙いとしています。

活動内容と実績

本講義は、三重が実施する「サステナブル経営アワード」受賞企業等を招聘して講義を行っています。2025 年度は、この賞を主催する三重県雇用経済部 中小企業・サービス産業振興課職員の講義をスタートとし、受賞企業から、株式会社マツザキ、株式会社ナベル、下津醤油株式会社、株式会社四日市事務機センター（敬称略）に登壇いただきました。加えて一般社団法人わくわくスイッチにも登壇いただきました。各企業とも環境にやさしい事業のみならず、地域に愛されるとともに、従業員にも配慮された働きやすい職場を構築されている様子が伺えました。

今後の計画

学生にとっては実際の経営を学ぶ貴重な経験となっており、今後も継続していきたいと考えています。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 岡 良浩・川崎 綾子

2-9 総合政策特別講義 b (総合政策学部)

活動の目的と経緯

担い手の減少や高齢化が進む富田鳥出神社の鯨船行事に対し、今後の継承に向けて何ができるのか。「祭り」の持つ意義を、実際に参加することを通して思索することを目的としています。

活動内容と実績

令和7年度より鳥出神社の鯨船行事が9月開催となったことを受けて開講された本科目では、従前より別科目(「都市祭礼論」「祭りとまちづくり」)を通じて協力してきた同行事に実際に参加し(本年度は中島組にて参加)、祭りの意義を肌で体感しました。また、祭礼当日に地域の方々と交流するだけでなく、事後にも座談会の場を設け、地域の方々と共に祭りやその意義の継承について議論を深めました。令和7年度は17名が本科目を受講しました。なお、この行事は2016(平成28)年に、ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の一つとして登録された、日本を代表する祭礼の一つです。

今後の計画

今後も継続して開講し、祭りの持続的なあり方や、地域社会のあり方を引き続き模索してまいります。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 浅井 雅・三田 泰雅・吉川 和狭

2-10. 法とまちづくり(総合政策学部)

活動の目的と経緯

新カリキュラムへの移行に伴い、令和7年度から新たに開講された科目です。まちづくりと法的規範との関係を理解することを目的に、四日市市役所職員の方たちにゲストとしてお越しいただいています。

活動内容と実績

令和7年度は、まちづくりと法的規範の関係について、学生たちがグループワークで調べて来て発表したことに対して、本学の卒業生でもある現職の四日市市役所職員の4名の方に、行政実務を踏まえたアドバイスをしていただくといったアクティブラーニングの形式で、授業を展開しました。

将来、公務員になる学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生でも、仕事上あるいは私生活の上で、避けて通ることのできない法的規範について理解が深まり、また、現職公務員に助言いただくことで、将来の進路が明確になった学生もいました。

今後の計画

令和8年度は、アクティブラーニングだけではなく、四日市市役所職員による講義も予定しています。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 小林 慶太郎

2-11 地域開発論(総合政策学部)

活動の目的と経緯

地域開発論は、地域政策のうち空間構造に関わる内容（国土計画・土地利用計画・都市計画）を理論と実践の双方から学ぶことをねらいとしています。

活動内容と実績

地域開発の実践については、三重県・四日市市を中心として事例を収集し講義に活用しています。

（三重県関係）

土地利用基本計画・国土利用計画・都市計画図・土地区画整理事業・公共事業の評価

（四日市市関係）

都市計画図・都市計画制度・都市計画マスタープラン（含む地域・地区別構想）・近鉄四日市駅前周辺整備基本構想等

今後の計画

地域事例は、常に最新のものを収集し講義に活用しています。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

2-12 都市祭礼論/祭りともちづくり（総合政策学部）

活動の目的と経緯

担い手の減少・高齢化に直面する大入道山車を対象に、若者の関わり方を模索します。事前講義と祭礼への実践的な参加を通じ、学生が「祭り」の意義を深く考察することを目的としています。

活動内容と実績

大入道山車保存会からの要望に応え、平成 21（2009）年より本科目を開講しています。令和 7 年度は大入道山車のほか、祭りの意義や四日市祭の歴史、富田（鳥出神社）の鯨船行事、岩戸山山車等についての講義も各保存会の方々に依頼いたしました。講義の後には、大四日市まつりにおいて大入道山車、菅公山車、鯨船勢州組の運行に実際に参加し、祭りの意義を肌で体感しました。その際、地域の方々と深く交流しながら、祭りやその意義の継承についても共に考える機会となりました。令和 7 年度は 35 名の学生が本科目を受講しました。

今後の計画

今後も継続して開講し、祭りの持続的なあり方や、地域社会のあり方を引き続き模索してまいります。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：浅井 雅・小林 慶太郎

2-13 市民社会論（総合政策学部）

活動の目的と経緯

住民主体の地域活動の意義を理解し、実習を通じて社会への生かし方を学ぶことを目的としました。いなべ市の「駄菓子屋ヤッホー」を拠点に、企業と市民活動団体が連携する先進的な事例を学びました。

活動内容と実績

講義では市民社会の理論を学び、いなべ市にて計2回のフィールドワークを実施しました。受け入れ先の「いなこね（駄菓子屋ヤッホー）」と大安工業有限会社のご協力を得て、ボランティア活動に従事しました。企業の敷地内に多世代交流の場がある意義を学び、地域課題の解決手法を考察しました。さらに、ボランティアを通じて住民や子供たちとの交流を深め、地域コミュニティにおける居場所の在り方を実証的に検討しました。これらの活動を通じ、他者と協力して事業を遂行する力や、地域に合わせた運営手法を習得しました。

今後の計画

今後も企業や住民との協働により活動を継続し、市民社会の発展と地域福祉の向上に寄与します。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：松本 彩月

2-14 市民とまちづくり（総合政策学部）

活動の目的と経緯

市民が主体となって「まちづくり」に取り組む大切さを、まちづくり関係者からの話やスタッフとしての実践を通じて学ぶことを目的に、旧「NPO論」を改変する形で令和5年度から開講しています。

活動内容と実績

令和7年度は、開講学期を後学期に移し、四日市JAZZフェスティバルのスタッフの方や、ヴィアティン三重のスタッフの方、三岐鉄道職員等のサンタ列車関係者の方に、ゲストスピーカーとしてお話しただくとともに、四日市JAZZフェスティバルやヴィアティン三重主催試合の関連イベント、北勢線サンタ列車に、学生がスタッフとして参加する機会も設けていただくことができました。

これらを通じて学生たちは、地域の方々のまちづくりに対する思いや、まちづくりに関する実践についての理解を、深めていくことが出来たのではないかと思います。

今後の計画

令和8年度も、ゲストスピーカーからのお話とスタッフとしての実践を通じた教育を行っていきます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：鬼頭 浩文、小林 慶太郎

2-15 アントレプレナーシップ論（総合政策学部）

活動の目的と経緯

本講義は、アントレプレナーシップ（起業家精神）を学ぶ目的で、総合政策学部の専門科目として開講しています。

活動内容と実績

本講義は、ビジネス経験のない初学者を対象として、事例紹介を行うとともに、ソーシャルビジネスを中心に事業計画のフレームと立案に必要な分析手法などを教授することによって、起業家精神を醸成することを目的としています。この中で、株式会社三十三総研が実施するビジネスプランコンテストと連携し、①応募事例の紹介（とりわけ学生応募）②財務指標の見方③ビジネスプランの作成の留意事項について、2回に渡って講義いただいています。また三重県信用保証協会より中小企業に対する信用保証と創業支援についての講義も行っていました。

今後の計画

起業家精神を自分事として考えられるよう、毎年、工夫しています。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

2-16 四日市公害論/都市環境学（環境情報学部）

活動の目的と経緯

本講義は、過去に四日市ぜんそくを引き起こした四日市公害の対策と改善事例を通じて、大気・水・廃棄物・エネルギーなど、現代社会の都市環境問題の全体像を理解することを目的としています。

活動内容と実績

本講義では、都市部の大気・水環境の保全や、廃棄物の適正処理、エネルギーや水の供給など、都市のインフラストラクチャーに関する基礎的、網羅的な知識を学びました。また、講義の一部を、「四日市公害と環境未来館」や「三重県環境学習情報センター」で実施し、四日市公害と環境未来館では、四日市公害の発生と改善に至るまでの詳細な映像資料や展示物を、三重県環境情報センターでは、大気・水環境の保全や、エネルギーシステムなどの展示物を、それぞれ見学しました。講義の終盤には、学生らによるワークショップを通じて、将来的な都市環境の改善に関するプレゼンテーションを行いました。

今後の計画

引き続き、四日市公害の事例を通じた都市環境問題の理解を目指して、内容を充実させていきます。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：森 康則

2-17 地域連携環境講義／地域環境論（環境情報学部）

活動の目的と経緯

環境関連の諸分野で活躍している方を講師として招聘し、環境問題の現実と経験をお話いただき、教科書や通常講義では知ることが難しい事柄を学生に学ばせることを目的としています。

活動内容と実績

令和7年度の15回の講義の内容は次の通りです。①ガイダンス、北勢地域の環境問題、②伊勢湾のプラスチックゴミ問題、③三重県の林業と今後、④藤前干潟の保全とゴミ問題、⑤名古屋市のプラゴミ対策、⑥伊勢湾のウミガメ保全対策、⑦SDGsと食品ロス、⑧四日市市のESD教育、⑨音楽による里山文化の発信、⑩北勢地域における地域農業の展開、⑪企業と環境対策、⑫三重県の廃棄物問題とサーキュラーエコノミー、⑬三重県の地球温暖化対策、⑭伊勢湾の漁業の現状、⑮豊穰の伊勢湾を取り戻すために

今後の計画

内容の濃い講義を行って参ります。公開授業ですので、学外の皆様も是非ご参加ください。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：千葉 賢

2-18 環境保全とツーリズム（環境情報学部）/観光政策（総合政策学部）

活動の目的と経緯

地域の「光」を「観る」という「観光・ツーリズム」の多様なアプローチについて、事例を紹介しながら解説し、地域の魅力やその楽しみ方を発見し、考える機会を提供することを目的とした授業です。

活動内容と実績

文学、歴史学、国際関係・文化人類学を専門とする3名の教員がオムニバス形式で担当し、それぞれの専門性や持ち味を活かしたテーマ設定のもとで授業を行いました。

具体的なテーマとしては、各種文学作品やアニメ（「ちびまる子ちゃん」など）の聖地巡礼、ロードムービー、芸術祭、東海道、松尾芭蕉、伊勢講、だんじり、ジオパーク等を取り上げ、主に文化的な視点から多様なツーリズムのあり方について講義を行いました。

今後の計画

令和8年度につきましては、諸般の事情により不開講となっています。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：高田 晴美、浅井 雅、富田 与

2-19 伊勢湾海洋実習/海洋調査法(環境情報学部)

活動の目的と経緯

伊勢湾は漁業や海運、レジャーなど人間活動が非常に活発な海域の一つです。本実習では私たちにとって身近な海・伊勢湾での海洋調査を通して、海洋環境や生息する生物についての現状を学びます。

活動内容と実績

三重大大学の実習船・勢水丸をお借りして、伊勢湾内にて環境調査を行う実習です。令和7年度は、8月4日から2泊3日で実習を行い、23名の学生が参加しました。船内での共同生活を体験しながら、伊勢湾の湾奥から湾口まで複数の地点にて、海水温や溶存酸素量などの海洋環境調査とベントスネットによる底生生物採集を実施しました。実習後は、採取した底生魚類の同定を行い、海洋環境と底生生物相との関係について考察しました。本実習は学生たちにとって、伊勢湾の役割や環境問題を知り、海域利用の持続可能性を考えるための良い機会になっています。

今後の計画

実習を継続し、得られた環境データから伊勢湾の現状や直面する問題について考えていきます。

担当部門 : 環境情報学部 担当教員名 : 古山 歩

2-20 土壌環境学(環境情報学部)

活動の目的と経緯

それぞれの地域の固有財産であるだけでなく人類の共有財産である土壌について、地域の環境問題を学ぶ環境情報学部の学生に考えてもらうために実施しています。

活動内容と実績

土壌は世界中のいろいろな場所にある人類共通の財産です。土壌はそれぞれの土地や風土に密着しており、その土地の農業や食文化にも結び付いた極めて地域性の高い財産です。この授業では、環境情報学部の環境科学専攻2年生を対象に、15回の講義のうち1回を三重県や北勢地域にある土壌の特徴や性質、分布状況などについて、実際の写真を交えて紹介しています。

今後の計画

次年度以降もこれまでに土壌学・土壌環境学で実施してきた内容を踏まえて、引き続き土壌と地域の関係に関する話題を充実させていきます。

担当部門 : 環境情報学部 担当教員名 : 廣住 豊一

3-1 高大連携授業～北星高等学校の1年生ゼミへの参加～

活動の目的と経緯

総合政策学部「入門演習 a・b」では、三重県立北星高等学校の生徒の参加を受け入れています。2019年度からは四日市大学との間で締結された高大連携提携書に基づいて実施しています。

活動内容と実績

三重県立北星高等学校との連携は、同校が三重県立四日市北高等学校の時代から始まっています。当初は本学の上級生向けゼミ活動に参加するかたちでしたが、2005年度以降は1年生のゼミに参加して高校の単位修得とする現在のかたちになりました。2025年度は北星高等学校から前学期（入門演習 a）、後学期（入門演習 b）とも2名を受け入れることができ、本学の学生と交流しながら学んでいただきました。この取り組みに参加した過去の生徒のなかには、北星高等学校卒業後に本学に進学した生徒もいます。

今後の計画

三重県立北星高等学校の学校関係者評価委員も本学の教員が長年務めてきており、引き続き多面的な連携が期待されます。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 中西 紀夫（科目共同代表）

3-2 2 学部共同の高大連携授業

活動の目的と経緯

四日市大学では本学と高校の相互理解を深めるために、様々な形式で高校と連携（あるいは協力）した活動（事業）を実施しています。その中で、2 学部が共同して高大連携協定を締結し、高校との連携事業として取り組んでいるものをご紹介します。

活動内容と実績

○暁高等学校

①7月7日から10日までの期間に2年生約195名がグループごとにテーマを決め、探究活動に向けた心構えや、テーマの掘り下げ、調査方法等を相談できる機会を設け、総合政策学部教員10名、環境情報学部教員3名の研究室を訪問しました。

②2026年1月30日に、1年生約230名を対象とした「地域課題に取り組む意義」についての講演を暁高校第一視聴覚ホールにて実施しました。講師を小林教授が担当しました。

③2026年3月11日に、1年生を対象とした模擬授業体験会を実施しました。「地域課題」をテーマにし、様々な観点から地元である「三重」について考察できるよう、教員の専門分野を生かした内容の模擬授業を実施しました。

模擬授業のタイトル	担当教員
四日市のお祭りと地域の課題	浅井 雅 教授
あなたの住むまちはどのように変化し続けていくだろう？	倉田 英司 教授
伊勢湾のマイクロプラスチック問題	大八木 麻希 教授
生成AIで考える地域の未来	木藤 裕也 教授

○桑名北高等学校

6月11日、2年生約130名に対して「大学・専門学校・就職セミナー」を実施しました。学務課の担当者より高校と大学との学びの違い、本学の紹介、卒業後の進路などを紹介して進学への意識を高めることができました。

○いなべ総合学園高等学校

12月11日、1年生を対象に鬼頭教授が講師を担当し、「避難所運営ゲーム（HUG）と防災講話」が行われました。HUGは避難者の年齢や状況が書かれたカードを基に、限られた時間で避難所での配置や対応を考える体験型学習です。HUGと防災講話を通して、避難所運営に求められる配慮や工夫への理解を深め、防災への関心と主体的に行動する大切さを学びました。

今後の計画

今後の取り組みとしては、高大連携を通して本学の教育・研究を発信し四日市大学への進学へと導く機会になるよう近隣高校との関係性の強化を図ります。

担当部門 : 入試課

連絡先 : 電話 059-365-6711 メール : nyushi@yokkaichi-u.ac.jp

3-3 被災地支援活動と学校間連携

活動の目的と経緯

四日市東日本大震災支援の会(以下、支援の会)は、被災地の復興・復旧のために、四日市大学の学生・教職員が中心となって2011年4月に設立し、2011年5月から一般市民とともに災害支援活動を行いました。2012年3月からは、三重県内の大学・高校と連携し、被災地での支援活動を行ってきました。当初の目的は、大規模災害を受けた被災地の復旧・復興支援と心のケアにありましたが、被災地での活動経験や見聞きしたことを地域防災に活かす活動も行っています。予想される南海トラフ巨大地震においては、三重県において復旧・復興がスムーズに進むために、多くの若者が被災地でボランティア活動をした経験が生きてきます。学校間で連携することも、災害に強いまちづくりにつながります。さらには、遠く被災地の若者と交流することも大切なことです。また、支援の会では、2015年度より、三重県教育委員会と連携した「学校防災ボランティア事業」を実施し、三重県内の高校・中学に呼びかけを行い、被災地での支援活動を通して三重の地域防災に貢献する人材育成に協力しています。

活動内容と実績

支援の会では、2026年3月までに合計101回の活動を行ってきました。新型コロナウイルス拡大の影響を受け、活動が制限されることもありましたが、2022年度より活動の制限がなくなり多くの活動ができるようになりました。三重県教育委員会と連携した「学校防災ボランティア事業」は2023年8月にコロナ前と同様の規模で東北の被災地でボランティア活動と防災学習を行う計画で実施しましたが、2024年正月に発生した能登半島地震を受け、2024年度からは秋に能登半島地震の被災地である輪島市にフィールドを変更し、現地で仮設住宅でのサロン活動や、現地高校生との交流をおこないました。2025年11月の輪島市支援が100回目の活動になり、中日新聞の本社版社会面、北陸中日の社会面に記事が掲載されました。

なお、活動資金は、中央共同募金会、政府、チーム四日市からの助成で賄っています。また、卒業生や一般市民から多額の寄付もいただいております。多くの方の支援があって活動できることに感謝しております。

今後の計画

2026年度は、学校間連携を盛んにし、活動継続の計画です。

担当部門 : 四日市東日本大震災支援の会

連絡先 : 環境情報学部 鬼頭 浩文 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

4-1 留学生による地域社会との交流

活動の目的と経緯

留学生支援センター(留学生支援委員会、学務課)は、留学生が主体的に地域社会と交流するための機会として、学内外での行事の実施や参加を企画してきました。特に、「四日市大学留学生日本語弁論大会」は地域の皆さんと交流する機会が持てる催しです。過去には、「留学生弁論大会」で優秀な成績を収めた学生の中から、全国大会での受賞者が出たり、弁論原稿が日本語の教科書に採用されたりしています。近年、地域社会においても異文化理解や国際交流での留学生への期待がより一層大きくなっており、留学生支援センターでは、そうした地域社会からの要請にも可能な範囲で対応しています。

活動内容と実績

第 22 回目となる「四日市大学留学生日本語弁論大会」を四日市市、四日市北ロータリークラブから後援を頂き、予選を 11 月 13 日に実施し、6 名が本選に出場しました。本選は、三重大学から 1 名、鈴鹿大学から 1 名の出場者を招き、12 月 13 日に開催しました。この大会は司会やスタッフも留学生が務め、進行のすべてを担当。大会出場者、運営担当者は何度も練習を重ねて、この日に臨みました。会場となった 311 教室には、四日市市など周辺自治体関係者や地域の方々、日本語授業担当の先生、教職員、日本人学生など学内外の多数の方々にご参加頂きました。

また、桑名市教育委員会国際教室では、ネパールの文化紹介、木曽岬小学校インターナショナルデーでは、ミャンマー、中国、ネパール、フィリピンの文化紹介、四日市国際交流センター主催の国際理解講座では、ネパールの紹介をしました。また、四日市市多文化共生推進室主催の市民懇談会に参加し、「まちづくりへの参画」について外国人の立場から意見を述べました。

これまでの取り組みが高く評価され、全国の日本語学校教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先「日本留学 AWARDS」として平成 25 年から 10 回上位入賞し、平成 27 年、28 年、29 年には大賞を受賞しました。

今後の計画

令和 8 年度については、これまでの活動を継続しながら、地域社会との連携や学内における日本人学生との交流活動について積極的に実施する計画です。



留学生日本語弁論大会



桑名市教育委員会国際教室

担当部門 : 学務課

連絡先 : 電話 059-365-6793

メール : gakumu@yokkaichi-u.ac.jp

4-2 一般社団法人四日市とんてき協会

活動の目的と経緯

四日市に来たことがない人たちにとっては、四日市と言うと、依然として公害の街という印象が強いようです。しかし、実際の四日市は、そのイメージに反して、とても暮らしやすい街です。

このギャップの解消、すなわち四日市に対するイメージの改善こそが、実は、四日市で地域おこしを進めていく上での、最大の課題なのではないでしょうか。いくら暮らしやすい魅力あふれる街であっても、それが知られていなければ、そこに引っ越して来る人も遊びに来る人もいないでしょうし、負のイメージでしか見てもらえないということが続けば、そこに住んでいる人たちまでもが、自らの街に対する愛着や自信・誇りを、失ってしまいかねません。

そこで辿り着いたツールが、ご当地グルメ「とんてき」です。昔から愛され食べ続けられてきた「とんてき」に四日市の地名を冠して発信していくことで、四日市に対するイメージを改善し、四日市に暮らす人々の街への愛着や自信・誇りを取り戻していこう、「四日市とんてき」をツールとして活用することで地域おこしを進めていこうと考え、平成20年に総合政策学部の小林教授を代表として、四日市とんてき協会を設立しました。

活動内容と実績

活動の目標は、「とんてき」の販売促進ではありません。「四日市とんてき」というツールを使って、四日市という街の魅力を発信することです。平成20年春以来ほぼ毎年発行してきた「四日市とんてきマップ」を現在はネットで配信しているほか、「四日市とんてき」を通じて四日市を売り込める公認ソースを始めとする様々な商品の開発を監修したり、各地のイベントへの出展を通じて四日市のPRに努めたりしています。

令和7年度は、四日市市内外で開催されるまちおこし関連のイベントに出展したり、子ども食堂に提供したりするなどして、引き続き、四日市の魅力発信に努めてきました。

また、発信だけではなく四日市の魅力を発掘することで市民のまちへの愛着や自信・誇りを高めていこうと平成26年度から始めた「四日市まちづくりカフェ」も、継続して隔月で開催しました。



「三重の大酒蔵市」への出展準備

今後の計画

引き続き各種イベントへの出展や「四日市まちづくりカフェ」の開催をしていくほか、他の団体との協働なども進めながら、積極的に四日市のまちの魅力を発信に努めていくとともに、四日市市での開催が検討されているB-1グランプリの実現にも協力して参ります。

担当部門 : 一般社団法人四日市とんてき協会（代表理事：小林 慶太郎 総合政策学部）

連絡先 : 四日市とんてき協会事務局 メール：tonteki@tonteki.com

5-1 地パト（四日市大学地域パトロール部）

活動の目的と経緯

総合政策学部では、平成22年度に、学部に割り当てられた未来経営戦略推進経費を活用して、学生による大学活性化企画を公募し、審査の上でその企画の実施経費を補助するという事業を行いました。この企画として、学生から自発的に応募があったのが、四日市大学地域パトロール（通称：地パト）です。学部からの補助は、蛍光色のユニフォームや、ごみ収集袋などの費用に充てられました。当初は2名の学生だけでのスタートでしたが、防犯や清掃美化、そして地域住民との交流などを目的に活動し、今日まで継続的に活動しており、地域からの評価も高まっています。

当初からパトロールをしてきた、あさけが丘だけではなく平成29年度からは、新たに大矢知地区でもパトロールを始めました。また、令和3年度からは、あさけが丘での産官学連携の「高齢者の安全な暮らしを支える活動」にも参加しています。

活動内容と実績

令和7年度も、月に3～4回、大学の授業が終わった後に、揃いの蛍光色のジャンパー（ユニフォーム）を着て、地域の方へ声掛けを行い、拍子木を叩きながら巡回を行いました。

また、巡回の際には、最近筒先などの金属製部品の盗難も多い消防用ホースの格納箱の点検や、地域の美化活動の一助としてのゴミ拾いも行ってきました。



消防用ホース格納箱の点検の様子

今後の計画

地域の安全は本来、地域の住民が主体となって担うものであり、地パトの活動は、あくまでもそうした地域の意識を涵養するための触媒と言えます。

そうした地パトの活動の意義は、これまで高く評価されてきたところですが、残念ながらその一方で学内では、活動を引き継いでいく部員の不足に苦しみ、四日市北防犯協会など、外部の方に支えられて何とか活動を継続してきたという実情もあります。

現在の部員は少人数ではありますが、あさけが丘の市営住宅に入居している学生の参加もあり、引き続き、地域の方たちのために、地道に活動を続けていく予定です。

担当部門：総合政策学部 小林 慶太郎（地域パトロール部 顧問）

連絡先：電話 059-365-6599（学務課） メール：keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

5-2 四日市市選挙啓発学生会「ツナガリ」

活動の目的と経緯

選挙というと、毎回、若者の投票率が低いことが問題となります。こうした状況を打破しようと、四日市市選挙管理委員会と連携して総合政策学部的小林教授が呼びかけたことを受けて、学生たちが自分たちの世代（若者世代）の投票率の向上を目指して始めた活動が「ツナガリ」です。

平成22年12月16日に、経済学部3名、環境情報学部1名、総合政策学部4名の計8名でスタートしました。グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められています。

活動内容と実績

令和7年度は、10月の大学祭において模擬投票を実施したほか、7月に行われた参議院議員通常選挙や、9月に実施された三重県知事選挙、2月に行われた衆議院総選挙に向けて、選挙啓発物資の配布などを行いました。

また、四日市市選挙管理委員会と協力して、若者の利用の多いSNSで選挙や投票に関する情報を発信しようと、フェイスブックページの運用も行っています。

こうした学生の活動は、選挙事務関係者や議会関係者、マスコミなど、多くの方からも注目・評価いただいています。

令和8年3月1日には、継続的に選挙啓発活動に取り組み、地域社会に貢献した学生として、メンバーの岡島さん（総合政策学部4年生）が、四日市市選挙管理委員会より「四日市市学生選挙啓発活動表彰」を受けました。



四日市市選挙管理委員会の毛利委員長と表彰された岡島さん

今後の計画

令和8年度は、令和9年の4月に予定される統一地方選挙の三重県議会議員選挙や四日市市議会議員選挙に向けて、若者の投票率を上げるための活動を引き続き行っていく予定です。

担当部門 : 総合政策学部 小林 慶太郎（四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」顧問）

連絡先 : 電話 059-365-6599(学務課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

電話 059-354-8269(四日市市選挙管理委員会事務局)

5-3 わかもの学会

活動の目的と経緯

「わかもの学会」は、文部科学省からの補助金事業「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)(平成 26 年度・平成 30 年度)」の一環として開始した、地域の「わかもの」たちによる地域活動や研究の報告会です。学生が地域と交流して、経験値を高めることに加え、取組の内容が地域の活力になることを目指しています。また「学会」という名称は、単なる活動報告に留まるのではなく、大学ならではの学術的な内容を地域に発信することをねらったものです。補助金が終了した令和元年度からは、四日市大学学会との共催事業「わかもの学会大会」として継続することとなりました。各学部から選出された本学の学生たちが、卒業論文や研究活動等について地域に報告しています。

活動内容と実績

令和 8 年 2 月 2 日 (月)、本学 8 号館 2 階にて「第 12 回 四日市大学わかもの学会大会」(主催：四日市大学学会・四日市大学)を開催しました。各学部から選抜された 6 組の学生に加え、暁高等学校から 2 名が参加し、研究成果や制作活動を発表しました。発表は各組 15 分(発表・質疑応答含む)で行われ、いずれも熱意あふれる内容となりました。学生発表後には環境情報学部の学生による映像作品が上映され、その後、審査結果が発表されました。厳正な審査の結果、最優秀賞・優秀賞・奨励賞に加え、来場者投票による会場特別賞が授与されました。

最優秀賞 会場特別賞	鈴鹿山脈におけるマホロバサンショウウオの出現時期と温度環境 環境情報学部 4 年 岩山 颯希(指導教員：野呂 達哉)
優秀賞	地下駐車場水没の背景と行政 総合政策学部 2 年 井尻 侑作、氏家 溜衣、高尾 希星、筒井 怜雄、徳井 瑛 (指導教員：小林 慶太郎)
優秀賞	空気・培地の冷却がトルコギキョウ‘マリーナマリン’の生育と切り花品質に与える影響 環境情報学部 4 年 片平 航貴(指導教員：廣住 豊一)
奨励賞	人気の悪役の条件 総合政策学部 3 年 井伊 千陽、細川 明日香(指導教員：高田 晴美)
奨励賞	SNS 使用によるストレス ―フーコーの考え方から考える― 総合政策学部 2 年 タマング アンズ(指導教員：フェリペ フェハリー)
奨励賞	四日市大学キャンパスの 3D 化と仮想散策システム 環境情報学部 4 年 猪井 大治郎(指導教員：前川 督雄)

今後の計画

今後は、日々の授業・演習での学修・研究成果等を発表する場を設けていきたいと考えています。

担当部門：学務課

連絡先：電話 059-365-6599 メール：gakumu@yokkaichi-u.ac.jp

6-1 みえアカデミックセミナー

活動の目的と経緯

「みえアカデミックセミナー」は、三重県内の全15校の高等教育機関が有する高度な学びと県民の皆さんをつなぐ一大連携事業です。1996年度に「三重6大学公開講座」として本学を含む6大学で開始し、2003年度から各機関が講座を担当する形式となって現在に続いています。主催は三重県生涯学習センターですが、各高等教育機関が講師を派遣する本イベントは、それぞれの機関の特長が活かされる全国的にもユニークな事業です。

同時開催の「みえアカデミック展」では、各機関のパンフレットやオープンキャンパス等の資料を一堂に集め、紹介しています。

活動内容と実績

2025年度も「みえアカデミックセミナー2025」が、津市の三重県文化会館 レセプションルームにて開講されました。8月28日（木）には、加納 光教授（総合政策学部）が登壇しました。演題は「言葉の世界をのぞいてみると… ～日中両国語が映し出す世界の違い～」でした。

当日は日本語の特定の言葉遣いや表現を中国語と比較しながら、日本語固有の発想や考え方について講演が行われました。特定の語や表現を手がかりに両言語の違いが生じる背景や、そこから見えてくる物事の捉え方の差異について、スライド資料を用いて解説がなされました。会場では、参加者が資料を参照しながら説明に耳を傾け、うなずきやメモを取りつつ受講する様子が見られ、言語の違いを通して日本語に固有の発想や考え方、言語と文化の関係性について理解を深める時間となりました。



講演中の加納教授

今後の計画



柳瀬 元志 教授

2026年度の講座は次のとおりです。

- 日 程：2026年8月20日（木）13時30分開講
- 場 所：三重県文化会館 レセプションルーム
- テーマ：「映像制作から学ぶこと ―決断・失敗・感動―」
- 講 師：柳瀬 元志（環境情報学部特任教授）

担当部門 : 学術情報課
連絡先 : 電話 059-340-1927

メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-2 四日市大学公開講座

活動の目的と経緯

リカレント教育は、近年、ますます重要度と注目度を増しています。大学における研究成果を広く公開し、地域の皆様の生涯学習を推進することを目的として、本学では開学2年目の1989年から公開講座を開始し、毎年度、その時代のニーズに合わせて様々な形式で開講しています。講師は原則として本学専任教員が務め、専門的知見に基づいた内容です。一般の方を対象に開講するものですので平易な説明を心掛け、本学の教育研究内容を広く提供することにより幅広い知識や視野を身につけていただくことを目指します。

2014年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を機に、同年度より2018年度までの5年間はCOC事業の一環としての公開講座も併せて、年2回の公開講座を実施してきました。2019年度よりこれを1回に集約し、より充実した内容で、地域コミュニティにお届けしています。

活動内容と実績



案内チラシ

四日市大学公開講座2025（三重県・四日市市後援）が9月20日（土）、四日市大学のスタジオにて開催されました。講座は柳瀬元志教授（環境情報学部）が講師を務め、午前と午後の2部制で開催されました。

今回は「テレビ番組作成におけるプロセスの解説とプロ仕様の機材を使った撮影体験」と題して、実際のテレビ番組制作を題材に、企画から放送に至るまでに求められる考え方や段取りを解説するとともに、テレビカメラを使用した撮影を体験できる内容でした。来場者からは、「テレビ制作の流れ、ディレクターの仕事についてよくわかった」「実際の（撮影）機材を使いながら説明してもらったのでわかりやすかった」などの感想が寄せられました。

今後の計画

2026年度は9月19日（土）に本学にて公開講座の開催を予定しています。今後も研究と教育の成果を活かし、地域の皆様に学びの機会を提供いたします。

担当部門：学術情報課

連絡先：電話 059-340-1927

メール：renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-3 四日市市民大学

活動の目的と経緯

四日市市は、毎年市民向けに「四日市市民大学」を開講しています。例年、5 コース程度が設定され、そのうちの1 コースを本学が、企画・運営に携わっています。2025 年度には「知恵の誘い^{いざな}2025」というテーマで開講しました。講師は、四日市大学に設置する2つの学部(総合政策学部・環境情報学部)の教員が務め、地域貢献として本学の教育・研究成果を広く社会に還元しています。

活動内容と実績

2025 年度は11月の毎週土曜日に「じばさん(四日市市地場産業振興センター)」にて四日市市民大学講座を開催しました。合計27名の受講申込みがあり、のべ88名の方にご来場いただきました。どの講演も講師に対して活発な質問をいただき、参加者の知識を深める機会となりました。

令和7年度 四日市市民大学 (主催：四日市市 企画運営：四日市大学)

日付(曜日)	演題	講師
11/1(土)	日本哲学への誘い	総合政策学部 准教授 フェリペ フェハリー
11/8(土)	伊勢湾に生息する小さなイルカ・スナメリ	環境情報学部 准教授 古山 歩
11/15(土)	江戸時代の地方都市における学び	総合政策学部 准教授 浅井 雅
11/22(土)	AI ってなに？ -AI のしくみとこれからの AI-	環境情報学部 助教 木藤 裕也
11/29(土)	多胎育児家庭への子育て支援	総合政策学部 助教 松本 彩月

今後の計画

2026 年度は9月26日、10月3日、10日、17日、31日の毎週土曜日、四日市商工会議所 ホールⅡにて、合計5回の講座を予定しております。今後も、本学教員の専門的知識や経験を活かし、市民の生涯学習の場として参加者の学習意欲にお応えできるよう魅力のある講座を展開いたします。

担当部門 : 学術情報課

連絡先 : 電話 059-340-1927

メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-4 履修証明プログラム

活動の目的と経緯

四日市大学では、広く社会人の皆様に大学教育を開放し、教養・スキルの向上、また生きがいの創出などに貢献しています。平成 21 年度から導入した「履修証明プログラム」は、大学の正規授業や公開講座などを組み合わせて、地域の方々が体系的な知識・技術等を習得できる教育プログラムです。どのプログラムも週に 1～2 日の通学で、1～2 年で修了が可能です。本プログラムを修了した方には大学から、学校教育法の規定に基づくプログラムであることを示した履修証明書(単位や学位を証明するものではありません)が交付されます。

活動内容と実績

令和 7 年度は以下の 6 コースを開設しました。

地域リーダー養成プログラム
社会調査の基礎修得プログラム
<他者>との共生の道を考えるプログラム
文化論プログラム
IT・データサイエンス入門プログラム
SDGs のための環境保全学習プログラム

令和 7 年度の修了者はありませんでした。

今後の計画

履修証明プログラムは、研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムです。目的・内容に応じ総時間数 60 時間以上で設定されるようになりました。このプログラムの修了者には、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。詳しくは、大学のホームページ(TOP > 一般・企業の方へ > 生涯学習について > 履修証明プログラム)をご覧ください。

担当部門：学務課

連絡先：電話 059-365-6599

メール：gakumu@yokkaichi-u.ac.jp

6-5 社会人を受け入れる教育プログラム

活動の目的と経緯

四日市大学は正課教育に広く社会人を受け入れる方針で、社会人入学制度、科目等履修生制度、聴講生制度を定めて運用してきました。これまでに多くの社会人の皆様がこれらの制度を利用されています。

活動内容と実績

1. 社会人入学(学士号取得)

「きちんと学び直して自分を高めたい」「仕事や子育てがひと段落し、新しいことにチャレンジしたい」等のニーズに応えるため、広く社会人に対して高等教育機関で学ぶ場の提供と講義の開放などを行い、学習機会の拡充のために設けられた入試制度です。

○社会人入学のポイント

- ・「入学金」と「4年間の学費」の半額免除
- ・履修や演習登録時にカリキュラムサポートを実施
- ・「総合政策学部」では5年から8年を在学期間とする「長期履修制度」を実施

○出願資格等（以下のすべての条件を満たす方）

1. 最終学歴が高等学校卒業以上の方又は文部科学大臣の定める大学入学資格を有する方
2. 満23歳以上の方
3. 社会人経験を有する方（就労年数1年以上の方）

○選抜方法

- ・事前課題文(600字～800字)の提出、書類審査及び面接の総合判定

※詳しくは四日市大学入試課にお問い合わせください。TEL 059-365-6711

2. 科目等履修生

生涯学習に対するニーズに応えるため、科目等履修生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目受講を許可するものです。一つ又は複数の科目を選択でき、単位修得が可能です。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方。
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)。
- ・試験に合格し単位修得の認定を受けた場合は、必要に応じて単位修得証明書を交付します。

3. 聴講生

生涯学習に対するニーズに応えるため、聴講生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目聴講を許可するものです。但し、聴講生は科目等履修生とは異なり、単位修得はできません。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方。
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)。

今後の計画

今後も地域に貢献する大学として、学び直しや教養・スキルの深化などの生涯学習を目指す社会人の皆様に、大学教育を積極的に開放します。

担当部門 : 学務課

連絡先 : 電話 059-365-6599

メール : gakumu@yokkaichi-u.ac.jp

7-1 研究機構 関孝和数学研究所

活動の目的と経緯

本研究所は数学、数学史、数学教育及びその周辺に関する研究・調査を推進し、大学、社会の発展に寄与することを目的として、2009年4月に発足しました。所長は上野健爾(京都大学名誉教授)、小川束(本学名誉教授)が務めています。2025年度は所長、副所長を含み15名の研究員・客員研究員が在籍しています。

活動内容と実績

- A. 研究員による2025年度の科研費(代表者、本学事務扱い)は
・ 斎藤憲「ギリシャ数学文献における基本術語と語法の分析」
の1件です。
- B. 上野健爾・小川束・小林龍彦・佐藤賢一編『関孝和全集』全3巻(岩波書店、2023)が2024年の日本数学史学会桑原賞に続いて、日本科学史学会特別賞を受賞し、上野健爾と小川束が授賞式に出席しました。(2025年5月24日)
- C. 研究員による著作として、上野健爾『代数幾何』(岩波書店)、小川束『綴術算経』(岩波文庫)、田中紀子『改訂版合格ナビ! 数学検定準1級』(共著、東京図書)、鈴木将史『推理式指導算術と創価教育』(第三文明社)が刊行されました。
- D. 昨年度に続き、オンライン形式で「SKIM (Seki Kowa Institute of Mathematics) レクチャーズ」を開催しました。本研究所ホームページにおいて一部録画映像、資料を観ることができます。
 - ・ 第17回 2025年6月15日(日): 13:00~14:00
中井保行「平安京の東西南北」
 - ・ 第18回 2025年9月14日(日): 13:00~14:00
曾我昇平「都のインフラ整備 西の保津川開削と東の高瀬川運河建設、そして運営」
 - ・ 第19回 2025年12月14日(日): 13:00~14:00
三浦伸夫(神戸大学名誉教授)「パスカル『数三角形論』執筆の周辺」
 - ・ 第20回 2026年3月15日(日): 13:00~14:00
上野健爾「ガロアの最後の手紙—シュヴァリエ宛の手紙—を読む」

詳細および参加ご希望の方は関孝和数学研究所ホームページをご覧ください。(トップページのお知らせ欄に随時開講情報と申し込みページを公開します。参加無料です。)

今後の計画

本年度に続いて、SKIM レクチャー、研究会の開催、各研究員の著作、論文執筆、学会における研究発表などを進めます。

担当部門 : 研究機構 関孝和数学研究所

連絡先 : 電話 059-365-6712 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

7-2 研究機構 公共政策研究所

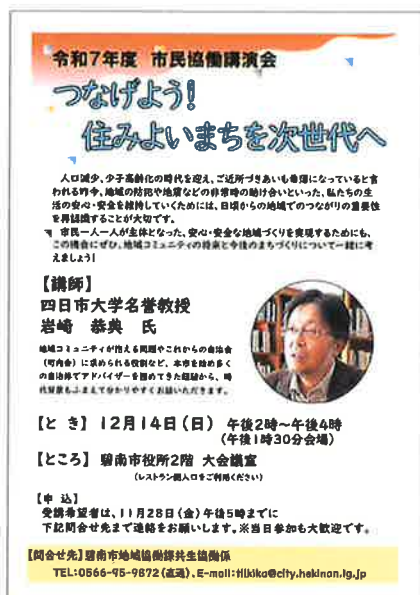
活動の目的と経緯

人口減少社会に突入した日本は、これまで人口増加を前提に作ってきた様々な「公」の仕組みの大きな見直しを迫られています。この見直しのためには、地域における市民参加を通じて、これまで「公」を担ってきた行政の役割を根本的に再検討するとともに、今後の人口減少社会において「公」を再構成する道筋を明らかにしつつ、「新しい時代の公」を担う首長、公務員、議会議員、各種地域団体等の役割の明示を行うことにより、「新しい時代の公」を「担い得る」人材・組織が「育つ」ことが必要です。

公共政策研究所は、各自治体が多様な地域性を有することを前提に、各自治体が様々な地域課題の解決を通じて「新しい時代の公」を形成していく取り組みに対して、学内の人的資源を動員して支援を行い、もって「公」の一般理論化を目的として平成21年10月に設立されました。

活動内容と実績

令和7年度は、前年度より引き続き、碧南市(地域協働課)より受託した「碧南市市民協働推進事業」を実施したほか、特定プロジェクト研究として、名張市をフィールドとした名張商工会議所との共同研究も2年目となり、年度末には、『名張の人口減少に関する調査研究報告書』を刊行しました。



碧南市での受託事業のチラシ



『名張の人口減少に関する調査研究報告書』

今後の計画

令和8年度も、前年度に引き続き、「碧南市市民協働推進事業」や名張市をフィールドとした特定プロジェクト研究など、着実に事業を推進していくとともに、講演や研修・現地指導なども可能な限りお引き受けするなど、各自治体の政策形成に資する取組みを継続していく予定です。

担当部門 : 研究機構 公共政策研究所

連絡先 : 電話 059-365-6712

メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

7-3 研究機構 生物学研究所

活動の目的と経緯

四日市大学周辺には、竹林を中心とした里山や、水田が多く残されており、よく言えば豊かな自然に恵まれた地域ということになると思われます。しかし、竹林の多くは、産業的な利用価値は乏しく、このため長期間にわたって伐採されておらず、タケノコの採取さえ出来ないような荒廃竹林が目立っています。一方、水田は、代表的な自然景観には欠くことが出来ないものでありますが、今日ではマイクロ、或いはナノプラスチックの汚濁源の一つとも考えられております。また、陸生或いは水生生物の種数、並びにその生物量の激減の最大の原因となっていると考えられ、海外においては使用が禁止されているにもかかわらず、稲作において大量に使用され続けている殺虫剤のネオニコチノイドによる汚染も注目されるところです。

このように、自然に対する今日的な問題は、単に保全、保護すればよいというものから、その管理や将来的な安全性の担保といった新しい取り組みが求められています。

研究所では、この地域の生物の現状を把握記録すると共に、今後の環境保全、自然保護、バイオ資源の可能性等に取り組み、その成果を教材として発信することで、地域への貢献を目指しています。

活動内容と実績

今年度の研究所の活動は、地域の教育機関、自然保護、或いは生物の調査研究を行っている同好会等と連携し、何回かの観察会へ講師、指導者として、本研究所長及び研究員を派遣しました。

愛知県安城市民交流センターでの、『矢作川中流域の生物』『西尾市の矢作川ワンドの生物相』等の講演と、昆虫、水生生物標本の展示貸し出しを行いました。

また、同センターを会場として、「親子参加による自然観察会」を西三河野生生物研究会と協賛し、多くの参加者があり極めて好評でした。

さらに、今年度は生物、環境を専門としているコンサルタント担当者の生物分類研修を試験的に実施し、当研究所の今後の可能性を探りました。

今後の計画

研究所は、本来この地域の生物相の調査把握を目標として、溜池や水田をその調査対象と考えてきました。しかし、地域貢献を考える中で、観察会や体験会の実施を先行させ、必ずしも当初の目的の実施が十分に成されているとはいいがたいのが実情であります。このことから、生物相調査の実施を優先させ、出来るならば、その成果を公表することで、教材或いは知見として有効活用していくことを目指したいと考えます。

担当部門 : 研究機構 生物学研究所

連絡先 : 電話 059-365-6712

メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

7-4 研究機構 環境技術研究所

活動の目的と経緯

環境技術研究所では、地域からの依頼による大気や水質等の環境調査研究、環境シミュレーション分析、廃棄物の処理やリサイクル技術に取り組み、地域社会や環境保全への貢献を目指しています。

具体的な事例としては、海蔵川、十四川、鎌谷川などの河川調査、焼却灰の鉛・フッ素等含有量低減化、リンの回収率向上等の技術開発などを実施しました。また、砒素の簡易分析法の河川・井戸（ヒ素除去装置）への適用、有機フッ素化合物 PFAS の近隣河川での測定を実施いたしました。

活動内容と実績

論文発表としては①高橋正昭、武本行正、角忠治、瀬古直樹、鈴木淳史、齋藤靖行、大島綾華、上野夏奈子：浸漬式処理装置を用いたバイオマス焼却灰の無害化実験、C5-8-P, 廃棄物資源循環学会、研究発表会・名古屋大学, 2025

② M. Takahashi, Y. Takemoto, T. Kado, A. Suzuki, A. Oshima, T. Ueno³ and K. Hosokawa : Investigation of the Fluorine Insolubilizes Agent for Biomass Ash, Acta Scientific NUTRITIONAL HEALTH, Volume 9, Issue 8, August 2025

③高橋正昭、武本行正、飯田克己、飯田裕史、松本康夫：鉄系素材を用いた飲用クロム汚染水簡易浄化方法の検討、四日市大学論集、第38巻第2号、2026 などがあります。

環境技術開発での共同研究による外部資金取得状況（令和7年度）

- ・活水プラント(株)・・・高機能メタン発酵装置による資源化技術の開発、簡易ヒ素除去装置開発
- ・(財)三重県環境保全事業団・・・四日市市内河川の水質汚濁や発生源調査に関する共同研究
- ・岡本土石工業(株)・・・バイオマス(木材等)の焼却灰中の有害物の溶出防止技術の開発

地域連携による環境調査活動・機材や分析は環境保全事業団等からの資金を活用（令和7年度）

市内の鎌谷川（地元西山町自治会からの要望）の中流域の窒素汚染、海蔵川（県地区市民センターより依頼）上流部畜産排水汚濁、十四川（富田地区自治会等との共同調査）中流部の有機汚濁などの河川の汚濁調査を実施し、可能な事例は環境系学会報告や学内研究機構 HP 掲載等をいたしました。

今後の計画

大学周辺の産廃処理場跡地や半導体工場周辺では、有機フッ素化合物 PFAS が検出され、当研究所は、PFAS を調査いたしました。2024 年 7 月には富田山城道路の暗渠から 190.4、部田川上流で 41.9ng/L、2025 年 12 月に産廃処理場西水路の西 K-5 地点で 267ng/L が検出されました。今後も調査を継続します。

担当部門 : 研究機構
環境技術研究所

担当教員名 : 武本行正

連絡先 : 電話 059-340-1639

メール :

takemoto@yokkaichi-u.ac.jp



大矢知・平津産廃処理場跡地 K-5 地点



鎌谷川下流・小松橋での採水

7-5 研究機構 地域農業研究所

活動の目的と経緯

農業はわたしたちの生活を支える基盤産業です。農業分野には、耕作放棄地の急増、里山の荒廃、獣害などの解決すべき課題も多く残されている一方で、AI や IoT などの技術の導入による新しい成長産業としての可能性も期待されています。

四日市大学研究機構地域農業研究所は、四日市大学地（知）の拠点整備事業の支援を受けて実施された1人1プロジェクトや特定プロジェクト研究などで得られた研究成果のうち、農業分野に関する内容をさらに発展させ、地域農業の振興をはかるための調査研究を行うことを目的に設立されました。

活動内容と実績

地域農業研究所では、地域の農業が抱える課題について調査し、地域と農業を振興するための方策について考えています。昨年度最終年度を迎えた四日市大学特定プロジェクト研究「地域農業遺産「マンボ」とコウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル」ですが、本研究課題については引き続き活動を続けています。本研究は、三重県北勢地域に多く存在する貴重な農業遺産である「マンボ」と、そこに棲息するコウモリに着目し、これらが周辺の農業用水や地下水の品質に与える影響を調査することで、環境負荷を減らした環境配慮型農業モデルの提言を目指しています。この活動が新聞の取材を受け中日新聞（三重版 2025 年 9 月 13 日）で報道されました。また、国際学会で研究成果が発表されました。



マンボの入り口



採水調査の様子



ボックスカルバート内で越冬する
モモジロコウモリ

今後の計画

次年度はこれまで実施してきた竹林間伐材の農業利用に関する調査研究を継続する計画です。また、特定プロジェクト研究「地域農業遺産「マンボ」とコウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル」の内容を引き継いだマンボとコウモリに関する調査は継続実施を計画しています。

担当部門 : 研究機構 地域農業研究所

連絡先 : 電話 059-340-1614

メール : zumi@yokkaichi-u.ac.jp

8-1 四日市北ロータリークラブ Rotary

活動の目的と経緯

ロータリーは、地域社会のボランティアから成る世界的なネットワークです。

世界中の事業・専門職務のリーダーや地域社会のリーダーであるロータリーの会員は、人道的奉仕活動を行い、職業における高い道德基準を奨励し、世界中で友好と平和を築くために尽力しています。

活動内容と実績

◆四日市大学留学生への支援

学業優秀で経済的理由による修学困難な学生に対して教育支援として奨学金授与と日本語弁論発表会への後援



◆四日市大学ローターアクトクラブスポンサークラブとして支援

2015. 7. 10 設立の四日市大学 RAC 活動への支援を行い、当クラブとの共同奉仕活動を実施

◆青少年交換事業の実施

国と国との関係を育み、平和な世界を築くというロータリーの世界的使命により、海外に於いて一年間の貴重な体験を通して、異文化交流、国際交流を深め、国際理解、国際親善を促進し明日の指導者である青少年を育成するための交換学生事業を実施



◆あさけプラザ図書館への児童図書寄贈

図書館開館以来 30 年以上毎年児童図書を寄贈

『四日市北ロータリークラブ文庫コーナー』を開設していただき本とふれ合い読書を楽しむ環境の整備



◆北星高等学校への支援

成績優秀で学習意欲のある生徒を対象に、地域社会に貢献する人材育成のため特別奨学金を授与



今後の計画

今後とも継続し、新たな活動を展開出来ればと考えています。

担当部門 : 四日市北ロータリークラブ

連絡先 : 電話 059-363-0456

メール : ynrc@vega.ocn.ne.jp

8-2 四日市東日本大震災支援の会

活動の目的と経緯

東日本大震災の被災地の復興と国内外の大規模災害の支援を目的に、四日市大学が中心となって、大学生・高校生・一般市民とともに活動しています。東北では、2011年5月からは泥かきなどの災害ボランティア活動を、2012年からは仮設住宅の交流支援を行ってきました。また、東北だけでなく、継続的に災害発生した場合には災害ボランティア活動をしています。

活動内容と実績

支援の会では、2026年3月までに合計102回の活動を行ってきました。2011年の設立以降、東紀州水害で被害を受けた三重県紀宝町、内水氾濫の被害を受けた四日市市内、京都府亀岡市の水害被害、関東・東北豪雨、熊本地震、西日本豪雨、台風19号災害で被害を受けた長野市、2024年1月に発生した能登半島地震の被災地にも災害ボランティアを派遣しました。

＜2025年度の能登半島地震における被災地支援活動＞

- 第94回 4月4日発：4月5日(土)午後：皆月 4月6日(日)午前：浦上
- 第95回 4月25日発：4月26日(土)午後：清水 4月27日(日)午前：道下第2
- 第96回 5月30日発：5月31日(土)午後：皆月 6月1日(日)午前：浦上
- 第97回 6月13日発：6月14日(土)午後：清水 6月15日(日)午前：道下第2
- 第98回 9月19日発 9月20日(土)午後：皆月 9月21日(日)午前：浦上
- 第99回 10月10日発 10月11日(土)午後：清水 10月12日(日)午前：道下第2 定員10名
- 第100回 11月14日発 11月15日(土)午後：皆月 11月16日(日)午前：浦上 定員10名
- 第101回 12月5日発 12月6日(土)午後：清水 12月7日(日)午前：道下第2 定員10名
- 第102回 2月13日発 2月14日(土)午後：皆月 2月15日(日)午前：浦上 定員10名

このほかに、9月10日と17日に四日市市内の内水氾濫で被害を受けた家屋の片付けをしました。

今後の計画

2025年度も助成金を受け、活動継続の計画です。

担当部門 : 四日市東日本大震災支援の会

連絡先 : 環境情報学部 鬼頭 浩文 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

氏 名	派 遣 先	内 容
喜 岡 渉	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議 委員
	三重県	みえライフィノベーション総合特区地域協議会
	三重県	三重県環境審議会 委員
	国際環境技術移転センター	評議員
小 林 慶太郎	四日市市	四日市市総合評価方式事後評価委員会 委員長
	四日市市	四日市市多文化共生推進市民懇談会 座長
	四日市市	四日市市公契約審議会 会長
	四日市市	四日市市美術展覧会運営委員会委員長
	四日市市	四日市市市民文化事業審査会委員長
	四日市市	四日市市営住宅入居者選考委員会委員長
	四日市市	図柄入四日市ナンバー普及促進協議会 委員長
	四日市市	四日市市総合コールセンター構築・運用業務委託プロポーザル審査委員会 委員
	亀山市	亀山市地域ブランド推進協議会 会長
	伊賀市	伊賀市公共調達のあり方審議会 委員
	伊賀市	伊賀市行政事務事業評価審査委員会 委員長
	伊賀市	伊賀市住民自治のあり方検討委員会 委員長
	名張市	令和7年度名張市地域活力創生会議 委員
	朝日町	朝日町総合計画審議会 委員
	菰野町	菰野町公正入札調査委員会 委員
	東員町	東員町教育委員会事務事業評価委員会 会長
	東員町	都市計画審議会 委員
	三重県	三重県男女共同参画審議会委員・第3部会長
	三重県	三重県農村地域資源保全向上委員会 委員
	三重県	三重県人権施策審議会 会長
	三重県	三重県特別職報酬等審議会委員 委員
	三重県教育委員会	三重県教育改革推進会議 会長
	三重県警察	四日市北警察署協議会 委員
	三重県地方自治研究センター	副理事長
	三重県市町総合事務組合	退職手当審議会 委員
	武豊町	武豊町提案型協働事業交付金審査会 委員長
	東海地区大学教育研究会	東海地区大学教育研究会 副委員長
	四日市市文化まちづくり財団	評議員
	四日市市とんてき協会	代表理事
	C T Y-F M	放送番組審議会 副委員長

氏 名	派 遣 先	内 容
鬼 頭 浩 文	四日市市	四日市市民大学講座企画運営業務委託プロポーザル審査委員会 委員
	四日市市	四日市市文化財保存活用地域計画策定協議会 会長
	四日市市	文化財保護審議会 副会長
	輪島市門前町	門前町連携会議における支援の協議会 委員
	四日市公害と環境未来館	四日市公害と環境未来館協議会 会長
	四日市市市立博物館	四日市市立博物館協議会 委員
	三重県四日市地域防災総合事務所	三泗地区 1 市 3 町広域避難に関する検討会議 委員
	愛知産業大学	論文不正に係る調査委員会 委員
鶴 田 利 恵	四日市市	四日市市優秀技能者選考委員会 委員
	四日市市	四日市市下水道事業運営委員会 委員
	四日市港管理組合	四日市港港湾脱炭素化推進協議会 委員
	鈴鹿市	鈴鹿市都市計画審議会 委員
	三重県	三重県固定資産評価審議会 委員
	三重県	三重県開発審査会 委員
	三重県	尾鷲港港湾脱炭素化推進協議会 委員
	三重県	津松阪港港湾脱炭素化推進協議会 委員
	高齢・障害・求職者雇用支援機構三重支部	高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会 委員
	名古屋市	名古屋市上下水道事業経営有識者会議メンバー
	名古屋港管理組合	名古屋港審議会 委員
	国土交通省中部地方整備局	中部圏広域地方計画有識者会議 委員
加 納 光	四日市市	四日市市立図書館協議会 委員
永 井 博	四日市市	四日市市文化功労者選考委員会 委員
	三重県立四日市商業高等学校	学校関係者評価 委員
	三重県立いなべ総合学園高等学校	学校関係者評価 委員
富 田 与	三重県	三重県政府調達苦情検討委員会 委員
三 田 泰 雅	四日市市	四日市市情報公開・個人情報保護審査会 委員
	四日市市	四日市市選挙管理委員会 委員
	四日市市	四日市市安全なまちづくり推進協議会 会長
	四日市市	男女共同参画センター市民企画講座業務委託プロポーザル審査 委員長
	桑名市	桑名市都市計画審議会 会長
	いなべ市	いなべ市行政不服審査会 委員
	いなべ市	いなべ市情報公開・個人情報保護審査会 委員
	名張商工会議所	人口減少対策特別委員会 委員
	桑名・員弁広域連合	桑名・員弁広域連合情報公開・個人情報保護審査会 会長
	桑名・員弁広域連合	桑名・員弁広域連合行政不服審査会 会長
	三重県	三重県男女共同参画審議会 会長
	三重県	三重県情報公開・個人情報保護審査会 委員
	三重県	みえ森と緑の県民税評価委員会 委員長

氏 名	派 遣 先	内 容
岡 良 浩	桑名市	桑名市上下水道事業経営審議会 委員
	川越町	川越町地域公共交通会議 委員
	三重県	三重県収用委員会 委員
	名張商工会議所	人口減少対策特別委員会委員
	三重県建設技術センター	三重県市町公共事業評価審査委員会 委員
小 泉 大 亮	愛西市	愛西市スポーツ施設指定管理者選定 委員
浅 井 雅	三重県	三重県公文書等管理審査会 委員
倉 田 英 司	四日市市	四日市市開発審査会 委員
	亀山市	亀山市環境未来創造会議 委員
	亀山市	亀山市まちづくり基本条例推進委員会 委員
	伊賀市	伊賀市地域活動支援事業審査会 委員
	名張商工会議所	人口減少対策特別委員会 委員
	ささえあいのまち創造基金	さえあい基金配分委員会 委員
吉 川 和 挟	四日市市	四日市市入札監視委員会 委員
	四日市港管理組合	四日市港管理組合公正入札調査委員会 委員
	名張商工会議所	人口減少対策特別委員会 委員
川 崎 綾 子	三重県信用保証協会	情報公開審査会 委員
	三重県信用保証協会	三重県信用保証協会外部評価委員会 委員
二 村 建 也	事業再構築補助金事務局	「中小企業等事業再構築促進事業」に係る書面審査委員
	三重県商工会連合会	令和7年度商工会青年部主張発表表大会 審査委員長
松 本 彩 月	三重県	三重県国民健康保険運営協議会 委員
廣 住 豊 一	四日市市	四日市市環境保全審議会 委員
牧 田 直 子	桑名市	桑名市環境審議会 委員
大八木 麻希	四日市港管理組合管理者	四日市港港湾審議会 委員
	三重県	三重県環境審議会 委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会 委員
	三重県	三重県環境影響評価部会 委員
	三重県	三重県公共工事等総合評価意見聴講会 委員
	三重県	三重県国土利用計画審議会 委員
	三重県	三重県公害審査会 委員
	国土交通省中部地方整備局	中部地方整備局総合評価審査委員会三重県地域部会 委員
野 呂 達 哉	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
古 山 歩	三重大学	付属練習船教育関係共同利用運営協議会 委員
樋 口 晶 子	三重県国際交流財団	評議員

委 嘱 委 員 等 (職員)

氏 名	派 遣 先	内 容
佐 藤 信 行	桑名市テニス協会	役員
黒 田 司	三重県野球協議会	強化育成部会 副部長
	三重県学生野球リーグ	理事
	東海地区大学野球連盟	常任理事 (三重県担当)

講演講師等

資料B
令和7年12月19日現在

氏 名	派 遣 先	内 容
小 林 慶太郎	四日市市	新任課長補佐級職員研修 講師
	四日市市	一般職員Ⅱ部研修 講師
	知多市	新任主事研修 講師
	岩倉市	地域リーダー協働講演会 講師
	岩倉市	職員協働研修 講師
	桑名市議会	桑名市議会議員定数あり方検討会 講師
	三重県教職員組合	女性部 夏季学習会 講師
	みんなこ	みんなサボこども食堂 講師
鬼 頭 浩 文	四日市市	四日市市熟年大学教養課程 講師
	四日市教育委員会	三泗教育講演会防災研修 講師
	朝日町	防災講演会 講師
	三重県	学校防災ボランティア事業アドバイザー
	三重県議会	「みえ現場de県議会」 講師
	三重県教育委員会	学校防災ボランティア事業の企画・運営 講師
	桑名市議会	議員対象：HUG訓練&防災講話 講師
	三重県四日市地域防災総合事務所	三泗地区広域避難ワークショップ コーディネーター
	四日市市立八郷西小学校	防災講話 講師
	四日市市立三重北小学校	児童対象の防災研修、地域住民対象の防災講話 講師
	中部地区カトリック学校連盟	教育研修会 講師
	四日市市立桜中学校	防災講座「HUG（避難所運営ゲーム）」 講師
	三重県立桑名西高等学校	防災研修・講話 講師
	四日市市三重地区	防災訓練 講師
加 納 光	三重県生涯学習センター	みえアカデミックセミナー2025 講師
永 井 博	四日市市	四日市市熟年大学専攻課程 講師
富 田 与	四日市市立三重平中学校	PCサークルにおける探究学習 アドバイザー
浅 井 雅	四日市市	四日市市民大学 講師
	枚方市	古文書入門講座 講師
フェリペ フェハリー	四日市市	四日市市民大学 講師
松 本 彩 月	四日市市	四日市市民大学 講師
古 山 歩	四日市市	四日市市民大学 講師
	四日市公害と環境未来館	四日市市民向け環境学習講座 講師
野 呂 達 哉	四日市市教育委員会	四日市市教育委員会教職員研修会 講師
	名古屋市環境局環境企画課	SDGs まちづくり推進事業キックオフセミナー 講師
木 藤 裕 也	四日市市	四日市市民大学 講師